様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：２４４０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ０７５８２

研究課題名（和文）家族介護者による不適切処遇発生リスクの解明とハイリスク者抽出チェックリストの作成

研究課題名（英文）Factors related to Potentially Harmful behavior (PHB) among family caregivers who look after older people with disabilities

研究代表者
荒井　由美子（Arai, Yumiko）

大阪府立大学・総合リハビリテーション学研究科・客員教授

研究者番号：００２３２０３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、家族介護者による不適切処遇について関連要因を明らかにし、縦断的な解析を行うことで不適切処遇に係るリスク要因を解明した。これらの解析結果に基づき、不適切処遇ハイリスク者抽出チェックリスト項目を同定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
在宅で要介護者を介護する者（以下、家族介護者）は数百万人と推定され、その数は増加の一途を辿っている。現在、在宅介護に伴う、家族介護者による、要介護者への虐待行為が社会問題となっており、特に、虐待の先駆的行為である不適切処遇を行う可能性が高い者（以下、ハイリスク者）を迅速に抽出することが喫緊の課題となっている。本研究は、不適切処遇の関連要因および発生要因を多変量解析等を用いて明らかにし、その解析結果に基づき、ハイリスク者を迅速に抽出することができるようなチェックリスト作成により現場でのニーズに応えるものであり、社会的意義は相応にあるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：The present study was aimed at elucidating factors related to Potentially Harmful Behavior (PHB) among family caregivers who looked after older people with disabilities. The data obtained from the older people with disabilities and family caregivers who had resided in X municipal government were cross-sectionally and longitudinally analyzed. These analyses elucidated items which were thought to be suitable for including a checklist for identifying PHBs among family caregivers.

研究分野：公衆衛生

キーワード：不適切処遇

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

在宅で要介護者を介護する者（以下、家族介護者）は数百万人と推定され、その数は増加の一途を辿っている。現在、在宅介護に伴う、家族介護者による、要介護者への虐待行為が社会問題となっており、特に、虐待の先駆的行為である不適切処遇を行う可能性が高い者（以下、ハイリスク者）を迅速に抽出することが喫緊の課題となっている。なお、家族介護者による不適切処遇とは、虐待よりも広い概念であり、「要介護者に危険が及ぶ虐待行為に適切に対応するためには、虐待行為のみならず、その前駆状態とも考えられる行為をも包含した、不適切処遇（Potentially Harmful behavior）に着目し、実態把握をしていくべきである」と提唱されている。申請者らは、上述の定義に則って、家族介護者の不適切処遇に関する実態調査を行った（Sasaki&Arai et al, 2007）。不適切処遇に関しては、サンプル数が中―大規模の横断研究（この場合 n=100 以上）および縦断研究については小規模であっても先行研究が寡少である。

## ２．研究の目的

そこで、本研究は、不適切処遇に関する横断的・縦断的な解析を行い、まず、代表性が担保されている大規模集団(T1 データ)を対象として不適切処遇の割合及び不適切処遇の関連要因を明らかにすること、次に、縦断データを用いて不適切処遇の発生率とリスクファクターを明らかにすること、これらの解析をもとに不適切処遇ハイリスク者抽出チェックリストを作成することを目的とする。

## ３．研究の方法

本研究では、上田ら(2000)が作成した不適切処遇質問票を用いた。同質問票は、「思わず叩いたりつねったり蹴ったりしてしまう」、「わざと一人きりにしておく」、などの項目をはじめとする 9 種類の不適切処遇行為を、過去半年以内に行ったことがあるか否かを家族介護者に尋ねる自記式質問票であり、妥当性については、申請者が、原著者の上田らとともに検討を了している（Arai et al，2014）。まず、T2 時調査データのうち、介護者の不適切処遇部分のデータについてクリーニングを行い、横断データを確定させる。その後、この T2 横断データと T1 調査データを用いて、不適切処遇に係る縦断データセットを確定させる。次に T1 データを用いて関連要因について検討する。

次に「T1 時に不適切処遇を行っていなかった介護者のうち、T2 時に不適切処遇を行うようになった介護者」（A 群と称する）と「T1 時に不適切処遇を行っていなかった介護者のうち、T2 時にも不適切処遇を行っていなかった介護者」（B 群と称する）を同定し、発生率を算出する。次に A 群と B 群の特性を比較し、ロジスティック回帰分析を行い、在宅介護継続者における不適切処遇の発生に係るリスクファクター（要因）を明らかにする。この分析を了することで、不適切処遇リスク要因が明らかになるため、これに基づき、申請者が不適切処遇ハイリスク者抽出チェックリスト項目（案）を作成する。このチェックリスト案に対する現場の意見を収集・勘案した上で不適切処遇ハイリスク者抽出チェックリストを作成する。

## ４．研究成果

家族介護者のうち、不適切処遇を行っていると回答した者（以下、不適切処遇あり群）が 1599 名であり、ないと回答した者（以下、不適切処遇なし群）が 2410 名であった(39.8%)。
次に不適切処遇あり群となし群において、家族介護者の特性ならびに要介護者の特性を univariate analyses を用いて比較した。さらに、当該解析において有意差がみられた要因間における相関係数を算出」したところ、相関係数が一定値以上の関連性がみられた変数の組が複数存在した。その後の解析における多重共線性を回避するため、複数の変数を除外することとした。その上で、不適切処遇の有無を従属変数とし、独立変数としては家族介護者の同別居、家族介護者の The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale（CES-D）得点等の変数を用い、multiple logistic regression analysis を行ったところ、投入した変数（要因）全てが不適切処遇のリスクファクターであることが明らかになった。T2 横断データと T1 調査データをマッチングさせた不適切処遇に係る縦断データをもとに発生群と非発生群の T1 における介護者の属性

を比較した。経済状態、続柄など、ぞれぞれの変数について、Chi-square test または Fisher's exact test を行ったところ、経済状態のみに関連がみられた。また、Student's t-test を用いて、J-ZBI_8、CES-D 得点等を比較したところ、いずれの変数においても有意差がみられた。また、要介護者側の変数について Chi-square test または Fisher's exact test を行ったところ、心理行動症状のみ関連がみられた。さらに、Student's t-test を用いて、年齢、要介護度等を比較したところ、いずれの変数においても有意差はみられなかった。次に、当該解析において有意差がみられた要因間における相関係数を、Spearman's rank correlation analyses を用いて検討したところ、相関係数が一定値以上の関連性がみられた変数の組が複数存在した。その後の解析における多重共線性を回避するため、2 つの変数を除外することとした。その上で、不適切処遇の発生を従属変数とし、独立変数としては家族介護者の J-ZBI_8、経済状態等を投入し、multiple logistic regression analysis を行ったところ、J-ZBI_8 得点などの要因がリスクファクターであることが明らかになった。これらの解析結果を踏まえ、不適切処遇チェックリストに含む項目を同定した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>荒井由美子 | ４．巻<br>34 |
| ２．論文標題<br>認知症高齢者の家族介護：介護負担の把握と介護者支援の観点から | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>精神科 | ６．最初と最後の頁<br>400-405 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>梶原弘平，荒井由美子，津留英智，坂崎剛，吉村満希 | ４．巻<br>17 |
| ２．論文標題<br>認知症高齢者の家族介護者の介護負担感に着目した簡便な支援とその効果 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>認知症ケア学会誌 | ６．最初と最後の頁<br>718-725 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>水野洋子，荒井由美子 | ４．巻<br>34 |
| ２．論文標題<br>認知症罹患高齢者の運転中止に関する総論的考察の試み | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>BIO Clinica | ６．最初と最後の頁<br>71-74 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>荒井由美子 | ４．巻<br>9 |
| ２．論文標題<br>認知症高齢者の自動車運転への対応：家族介護者を支えるマニュアルの活用を | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>へるすあっぷ21 | ６．最初と最後の頁<br>26-27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Miyabayashi I, Washio M, Toyoshima Y, Ogino H, Hata T, Horiguchi I, Arai Y | 4．巻<br>25 |
| 2．論文標題<br>Factors related to heavy burden among Japanese family caregivers of disabled elderly with home-visiting nursing services under the public long-term care insurance system | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>IMJ | 6．最初と最後の頁<br>167-170 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Arai Y, Kajiwara K, Toba K, Sakurai T, Mori D, Ookubo N, Fujisaki A | 4．巻<br>18 |
| 2．論文標題<br>A prompt and practical on-site support programme for family caregivers of persons with dementia: a preliminary uncontrolled interventional study | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>Psychogeriatrics | 6．最初と最後の頁<br>476-478 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1111/psyg.12344 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>荒井由美子，水野洋子 | 4．巻<br>29 |
| 2．論文標題<br>認知症に罹患した高齢運転者及び、その家族介護者への支援：「認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援マニュアル」の概要及び作成の背景となった調査の結果 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>老年精神医学雑誌 | 6．最初と最後の頁<br>61-67 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>水野洋子，荒井由美子 | 4．巻<br>76 |
| 2．論文標題<br>認知症高齢者の自動車運転を考える：現行法の下での問題意識及び対応 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>日本臨牀 | 6．最初と最後の頁<br>60-65 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>水野洋子，荒井由美子 | 4．巻<br>29 |
| 2．論文標題<br>認知症の疑いを有する高齢運転者及び家族の視座 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>老年精神医学雑誌 | 6．最初と最後の頁<br>818-824 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>荒井由美子 | 4．巻<br>147 |
| 2．論文標題<br>Zarit介護負担尺度日本語版（J-ZBI）および短縮版（J-ZBI_8） | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>日本医師会雑誌 | 6．最初と最後の頁<br>S193-S194 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>荒井由美子 |
| 2．発表標題<br>短縮版Zarit介護負担尺度日本語版（J-ZBI_8)を用いたハイリスク介護者の迅速な同定と簡便な家族介護者支援の試み |
| 3．学会等名<br>第34回日本老年精神医学会シンポジウム9（招待講演） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>荒井由美子 |
| 2．発表標題<br>当事者および家族支援：家族介護者支援マニュアルの紹介 |
| 3．学会等名<br>第38回日本認知症学会学術集会シンポジウム16（招待講演） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>荒井由美子 |
| ２．発表標題<br>認知症高齢者の自動車運転を考える：ご本人と家族への支援 |
| ３．学会等名<br>第40回日本臨床薬理学会学術総会ランチョンセミナー（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>水野洋子，荒井由美子 |
| ２．発表標題<br>認知症高齢者に対する家族介護者の不適切処遇に係る副次的検討：介護負担得点に基づく支援時に得られた家族の見解に着目して |
| ３．学会等名<br>第34回日本老年精神医学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>梶原弘平，荒井由美子，津留英智，坂崎剛、吉村満希 |
| ２．発表標題<br>認知症高齢者のハイリスクの家族介護者に対する簡便な支援方法の検討 |
| ３．学会等名<br>第23回日本老年看護学会学術集会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>水野洋子，荒井由美子 |
| ２．発表標題<br>運転免許の取得履歴を有さない独居要支援者の外出・移動に関する検討 |
| ３．学会等名<br>第33回日本老年精神医学会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>中部貴央，佐々木典子，荒井由美子，今中雄一 |
| ２．発表標題<br>認知症のケアにおける介護離職・介護休業と抑うつ度との関連 |
| ３．学会等名<br>第77回日本公衆衛生学会総会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

〔図書〕　計5件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>荒井由美子 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>医学書院 | ５．総ページ数<br>915 |
| ３．書名<br>介護負担と介護者支援：介護者への情報提供を中心に．中島健二ら編．認知症ハンドブック第2版 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>荒井由美子 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>南江堂 | ５．総ページ数<br>185 |
| ３．書名<br>認知症高齢者の家族介護：不適切処遇と介護負担．櫻井孝ら編．認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診断実践テキスト | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Wahio M, Toyoshima Y, Miyabayashi I, Arai Y | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>Springer | ５．総ページ数<br>196 |
| ３．書名<br>Health Issues and Care System for the Elderly | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>水野洋子，荒井由美子 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>中外医学社 | ５．総ページ数<br>170 |
| ３．書名<br>臨床医のための！高齢者と認知症の自動車運転 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>荒井由美子 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>三京房 | ５．総ページ数<br>24 |
| ３．書名<br>Zarit介護負担尺度日本語版/短縮版　使用手引 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|